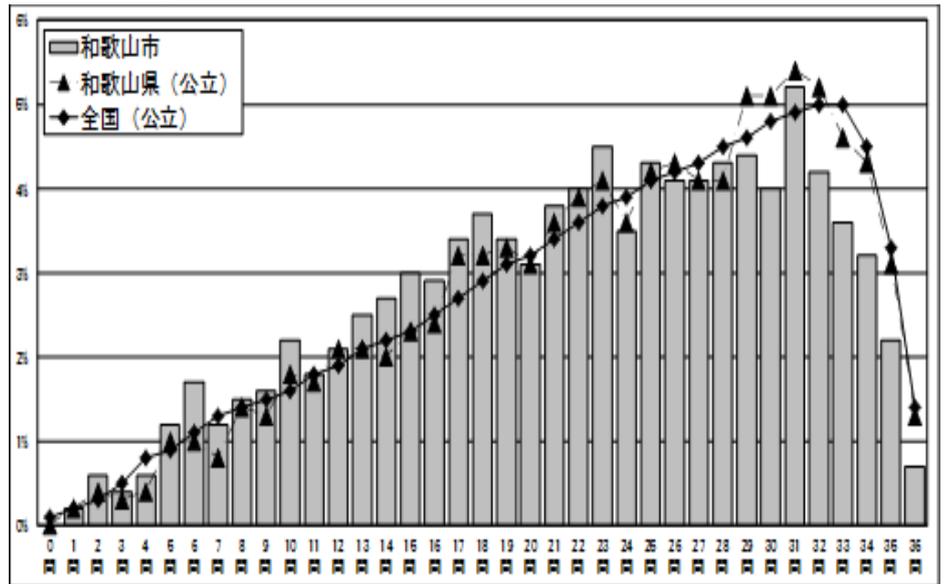


教科調査の分析より「中学校数学科」

数学A	平均正答率
和歌山市	61
和歌山県	65
全国	65

A問題の平均正答率は、昨年度と同じで4ポイント全国平均を下回りました。領域別でも「関数」「資料の活用」では約4ポイント全国平均を下回っています。

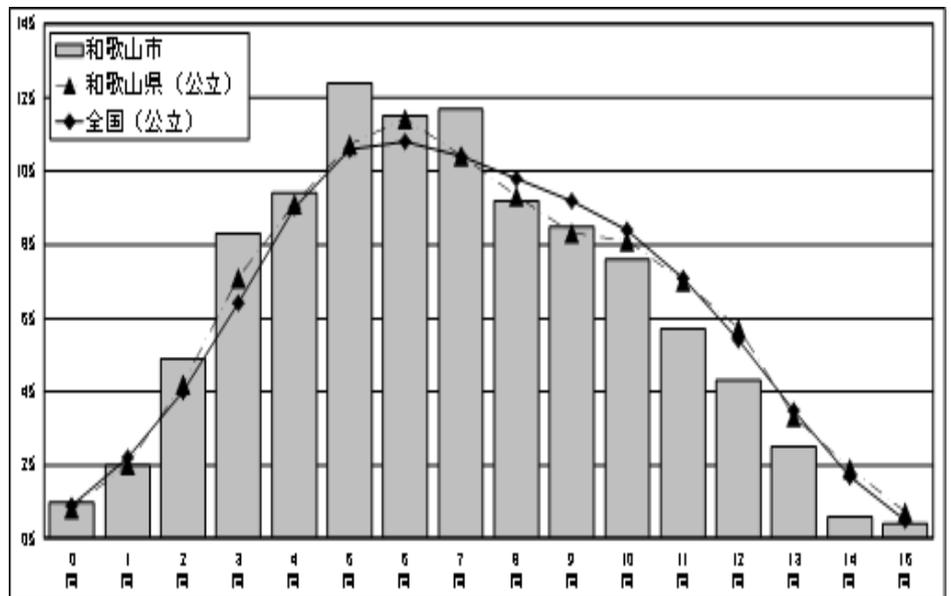


☆数学Aの設問に見られた和歌山市生徒の傾向

- 分数の乗法の計算設問1(1)($5/9 \times 2/3$ 正答率 88.8% 全国比+1.7P)
- 実生活の場面において、ある数量が正の数、負の数で表されることの理解を見る設問1(4)(3月25日を基準として3月23日を負の数で表す 正答率 90.2% 全国比+0.8P)
- 命題の仮定と結論を区別し、与えられた命題の仮定を読み取ることができるかの設問8(事柄「 $\angle ABD = \angle CBD$ 、 $\angle ADB = \angle CDB$ ならば $AB = CB$ である。」の仮定をすべて書く 正答率 77% 全国比+2.7P)
- 与えられた度数分布表について、ある階級の相対度数を求めることができる設問14(2)(6月1日～30日までの記録を表した度数分布表からある階級の相対度数を求める 正答率 36.6% 全国比-8.9P)

数学B	平均正答率
和歌山市	45
和歌山県	48
全国	48

B問題の平均正答率は、全国平均を下回っていますが、昨年度に比べ3ポイント縮まりました。領域別では、「数と式」「関数」「資料の活用」では、全国平均から3～4ポイント下回っています。



☆数学Bの設問に見られた和歌山市生徒の傾向

- 資料から必要な情報を適切に読み取ることができるかの設問5(1)(1週間の総運動時間が420分の時、含まれる階級の度数を求める 正答率 79.4% 全国比+0.1P)
- 数学的な表現を事象に即して解釈し、的確に処理することができるかの設問3(3)(与えられた式から、aの変域に対応するbの変域を求める 正答率 33% 全国比-10.2P)
- 与えられた情報から必要な情報を選択し、事象に即して解釈することができるかの設問5(2)(若菜さんの1週間の総運動時間の長短を判断するための根拠となる数値を選ぶ 正答率 42.1% 全国比-8.2P)